

「商店街を町の顔に！」

愛媛県立川之江高等学校 3年

森実 夏海

3. 商店街に活気を出す提案

インタビューから「町づくり」に対する商店街側の献身的な様子がうかがえた。また、調査から栄町商店街に必要な要素を絞り出すこともできた。そこから私が提案したいのは、

「**栄町商店街への飲食店の集中**」である。花園通り商店街内には様々な世代が楽しめる飲食店が揃っていた。そこでまず「飲食店と集中させるための布石として朝市のような路店から始めるのが良いだろう。やはりとしては一度に理解してもらって飲食店側を商店街に集めるのは難しいため、その路店で人の集客量や様子を見て納得して商店街でお店を開いてもらうのだ。その案が下記のものである。

提案①：「ぐるめ市」

概要 ... 現在ある朝市や食の回廊をさらにパワーアップさせたもの。今までは有名店が来るのではなく、産地直送型の市であった。もちろんその地元の良さも残しつつ、若者にも親しみやすい、若鳥の揚げ鳥や市内ラーメン店のラーメン、カレーや新宮霧の森のスーリを店売する。さらに市の回数も従来の市より多く、認知度を高める。

この市で様々な店舗の理解が得られたならば、次に提案したいのは町を生かしたキャンペーンである。

提案②：「紙国 美味しいもん巡り」

概要 ... かけ言葉を生かし、地元の人に親しみやすいタイトルをつけた。「四国の“お遍路巡り”」からヒントを得て、118ヶ所を巡るのは難しいため、18軒の飲食店と協力してスタンプラリーを行う。18個集めたら飲食店の割り引き券と引き換えができるため、また食へにきてもらえるというサイクルを回している。タイトルの“紙”は紙の街の紙を「し」と読み、四国の「し」とかけている。

さらに、ただ飲食店だけでなく、「**本馬食型飲食店**」を導入することで、食中毒防止や話題性、満足度の増加を見込めると考える。この案は以前、私が岡山県の実験地区を訪れた際に、名物の「ぶりあづめ」の手焼き本馬食をしたことがあり、その時に「美味しい」という思いだけでなく、「楽しかった」という印象も同時に残った出来事から来ている。この本馬食から、この案で地域の人にもっと楽しんでもらえるのではないかと考える。



4. 結果・まとめ

今回、近くにあるにもかかわらず、なかなか知るこぼれがちな商店街にスポットを当てるといふ魅力を感じることのできる調査となった。まだまだ商店街自体に「町づくり」の可能性を感じた。しかし調査の中で問題点や今後の課題となるだろうと予想できるのが「**空き店舗問題**」である。また、飲食店で賑わうようになるには、それに合わせて周囲の商店も昔のままではなく、古きよさを残しつつ明るさと入りやすさを求めた改装が必要が出てくるだろう。店主側との理解で解決していくものが多い。ここから1つ1つ解決していくことでより良いビジョンに合った持続可能な町づくりとなるだろう。